札幌学院大学

商学部 経済学部 人文学部 法学部 社会情報学部 商学部第二部
商学科 経済学科 人間科学科 英語英米文学科 法律学科 社会情報学科 商学科

Sapporo Gakuin University
学園広報

1991. 11. 25 No.50
編集・発行 札幌学院大学 企画調査室
〒069 北海道江別市文京台11番地
電話（011）386—8111

社会情報学部・経済学部開設記念
第15回学術講演会開催される

「講演と音楽の夕べ」

秋の気配が次第に色濃くなってきた十月四日、午後六時半より札幌市共済ホールにて、札幌学院大学第十五回学術講演会「講演と音楽の夕べ」が、社会情報学部・経済学部開設記念と銘うって開催された。

当日は司会者による講師紹介のあと、社会情報学部長田中一氏によって「人とコンピューターと腕前比較」と題する講演が行われた後、東京在住で活躍中の藤井一興氏（ピアノ）、磯野順子氏（ヴァイオリン）の両氏による演奏がおこなわれた。

講演に先立ち、見澤学長から本学の沿革、学術講演会の由来、社会情報学部・経済学部の開設、そして日頃のご支援に対するお礼の挨拶がなされた。続いて田中一社会情報学部長が本題に入る前に、「社会情報学部は日本で初めての学部である。従って、社会情報学部とはどんな学部かと聞かれたら、私は、ソフトな理系です、科学的な文系です。しかし、紫色をさしてあれは赤に近い青です。青に近い赤ですとこのように答えても、紫色に近いエレガントな雰囲気は出てきません。従って社会情報学部は社会情報学部として、理系とか文系とかいう十九世紀的な範疇ではなかなかとらえきれない二十一世紀の学部であると多少は胸を張って答えることにしている。」と紹介があり、続いて本題では、「コンピューターは人間より馬鹿ですと講義すると、たちまち学生諸君は抗議めいた質問を提出し、こちらの方が喫驚します。確かにコンピューターに何かを記憶させると忘れることはありません。計算が速いことも事実です。しかし忘却能力の欠如と計算が速いことのみが知的能力の全てではありません。例えば直感と思考はコンピューターが全く不得意とするところです。どれだけ多くのことを記憶することができるかを示す記憶容量は、人間の方がはるかに上です。それでも学生諸君は質問します。コンピューターの機能はどんどん高くなって、やがて人間がコンピューターに使われる世界がくるのではないかと。この問には、人間の在り方に関する一つの盲点があります。私達はすでに定まった道をただ歩んでいるのではありません。未来は私達が作るものです。コンピューターを道具として役立たせるような世界を創造していくこともまた可能な未来への道です。」と一時間程し、来聴者を魅了した。ただ、話が盛り上がった時に予定の時間が迫り、もっと良く話が聞けなかったことが残念であった。

休憩をはさんで、現在、活躍中のお二人による「没後二〇〇年記念モーツァルト特集」が演奏された。曲目は、ヴァイオリン・ソナタ第28番ホ短調K・304、ピアノ・ソナタ 第11番 イ長調 K・331 トルコ行進曲付、ハフナー・セレナーデ K・250より ロンド、ディヴェルティメント第17番 K・334 より メヌエットが演奏され、ときおり藤井氏の丁寧な説明を交えて行われた。

最後は、聴衆の拍手に応えて、アンコールを一曲演奏され、学問の秋・芸術の秋の一夜をゆったりと締めくくった。

「没後二〇〇年記念・モーツァルト特集」と銘打って、東京在住で活躍中の藤井一興氏（ピアノ）、大谷康子氏（ヴァイオリン）の両氏をお迎えして演奏された。曲目は、「ヴァイオリン・ソナタ 第28番ホ短調 K・304」、「ピアノ・ソナタ 第11番 イ長調 K・331 トルコ行進曲付」、「ハフナー・セレナーデ K・250 よりロンド」、「ディヴェルティメント 第17番 K・334 よりメヌエット」それぞれを二人とも息のあった演奏を披露、また、アンコール曲が終わっても聴衆の拍手は鳴り止まず、たくさんの市民を迎えて、心ゆくまで講演と音楽を楽しんだ。

人文学部70名の臨時定員増を申請

去る九月末、人文学部の入学定員を平成四年度から平成十一年度までの期限付入学定員増加の申請を文部大臣に行い、受理されました。

これが認可されると、平成四年度「入学試験」から、人文学部人間科学科は現在一〇〇名の定員が一五〇名に、英語英米文学科の定員が五〇名から七〇名となり、合計七〇名の定員が増加されることとなります。

期限付入学定員増加の申請を行った人文学部は、昭和五十二年に開設され、人間科学科と英語英米文学科の二学科で開設し、それぞれ特色ある教育を行っております。

特に、近年、志願者が増加しており、この度の申請はその社会的要請に応えるものです。

旭川市民講座成功裡に終わる
「地球に生きる—火山列島日本・北海道はいま—」

旭川市民講座「講演と音楽の夕べ」は、九月三日(木)、旭川市民文化会館小ホール（収容定員三二〇名）を会場に開催され、定員オーバーの約三三〇名の市民が集まり、立って見る人の姿が見られた。会場内は、外と同じ熱気でムンムンしていた。

見澤学長から本学の沿革、市民講座の由来、社会情報学部・経済学部の開設、そして日頃のご支援に対するお礼の挨拶がなされた。続いて、勝井義雄社会情報学部教授が、「地球に生きる—火山列島日本・北海道はいま—」と題して、スライドを使い、長崎県の雲仙普賢岳のこれまでの火砕流、被害状況、これからの防災等、そして、世界の火山による被害、また、これまでの北海道における火山の活動状況や被害、そして、これらに対する防災等についてこまやかに話された。音楽は、

父母懇談会開催

去る十月二十六日（土）本学に於いて石狩圏を対象に平成三年度の父母懇談会が開催されました。

今年度は、参加者数こそ前年を下回ったものの、その分、個別面談に時間をかけることができ、またアンケート調査にも積極的にご協力をいただくなど、例年になく熱のこもった懇談会となりました。

参加状況及びアンケートに記載されたご父母からのご意見及びご要望を紹介します。

◎ 参加者数

	商学	経済	人間科学	英語英米文学	法学	商学II部	合計
地域対象者数	132	134	57	33	85	52	493
参加予定者	12	14	9	3	11	2	51
参加者	8	10	9	3	8	2	40
前年度参加者	22	20	6	2	16	6	72

◎ ご意見及びご要望

・子供の学校生活の現状が理解できて良かった。
・このような企画を今後も継続してほしい。
・担任の先生に面談してほしい。
・大学で父母懇談というのには驚いていたが出席して良かったと思います。
・個別面談の待ち時間を少なくしてほしいと思います。
・成績表の見方がわかり良かったと思います。
・二年次だけでなく、毎年全学年を対象とされることを望みます。
・ビデオでの紹介がわかりやすく良かったと思います。

今回の本学会場の開催をもって今年度計画の父母懇談会はすべて終了しました。

なお、六月に開催された地方会場を含む出席者数は右のとおりであります。

	滝川	帯広	釧路	本学	合計
地域対象者数	179	180	194	493	1,046
参加予定者	64	81	94	51	290
参加者	54	70	83	40	247

文化講演会開く
イリノイ大学教授迎え

一九九一年度の札幌学院大学文化講演会は、十月三日、来日中の米国・イリノイ大学教授・経営工学博士、日本博英氏を迎えて「アメリカ型マネジメントの問題点」という演題で坂下紀彦商学部教授の司会のもと、田中二郎社会情報学部教授の講師紹介の後、教職員、学生および一般社会人が約一五〇名参加して行なわれた。

初めに、一九六〇年代以降、米国企業の競争力低下の原因が政府の財政赤字やOPECによるエネルギー問題等では十分に説明がつかないこと、又米国の国内市場の広さから過去二十年間米国企業の利益率が変っていないことを指摘した。

しかし、米国の経営者は、新経営理念である短期的な利益極大化を志向する財務管理、M&Aにみられる企業ポートフォリオ管理、顧客中心の販売戦略の大きなうねりに巻きこまれ、長期の経営戦略に基づく新市場の開拓や新製品の開発に消極的な姿勢を取っている。

このことは、生産に技術的基盤を持たない財務や法律を学んだMBA出身者が経営者として一九六〇年代以降急増していること、長期利益を支える研究開発費の国民所得に占める割合が六〇年代半ばから低下していることに起因しているとの詳しい説明がなされた。

平成4年度　入学試験日程

■一般入学試験

学部・学科	出願期間	試験日	試験場	合格発表
法学部法律学科 商学部第二部商学科	1月10日(金)～1月24日(金)（必着）	2月8日(土)	本学 京都 森ノ宮 阪東 青山大	2月21日(金)
経済学部経済学科 人文学部英語英米文学科		2月9日(日)		
商学部第一部商学科		2月10日(月)		
人文学部人間科学科 社会情報学部社会情報学科		2月11日(火)		
商学部第二部商学科（第二期試験）	3月2日(月)～3月9日(月)（必着）	3月12日(木)	本学	3月14日(土)

'91就職戦線

健闘をみせた公務員試験

企業と大学との懇談会

札幌学院大学 主催

平成三年度の就職戦線はほぼ終了した。今年度も企業側の採用意欲は旺盛で、売り手市場の構図は基本的には変わらなかった。しかし、景気の先行き不透明感からか、求人社数については前年度並に落ち着きそうだ。公務員試験では、前年に引きつづき道職員上級に合格者をだした。道中級試験は、一般行政試験が全体で前年度比五〇%減の合格者と厳しい中一昨年水準を超える健闘をみせた。

超売り手市場は一段落

今年度の就職戦線は、前年同様本州企業の活発な動きで始まった。

民間調査機関によると、来春卒業予定の大学男子に対する全国の民間企業の求人総数は、六十二・六万人となり、昨年より約七万人（一〇・五%）の減。この結果来春卒業予定者に対する求人倍率は、二・七二倍となり、史上最高であった昨年の三・一四倍を〇・四二ポイント下回った。

とりわけ、文系学生の求人倍率は、二・四一倍で昨年度の二・九五倍を〇・五四ポイント下回り、ほぼ四年前の水準に戻った。ただ、「超売り手市場」は一段落を迎えたが、採用予定者の不足は三九・六万人と、依然求人難という構図は変わらないとしてる。

このような状況を反映してか、十月末までに本学に寄せられた求人社数は、三、〇九六社で過去最高の前年同期を若干ながら下回っている。これは、詳細な分析が別途必要だが、いわゆる超売り手市場は一段落したと言える。

上場・有力企業に多数内定

しかしながら、内定状況は極めて好調で、昨年同期を上回っている。公務員、福祉関係や教員志望等の一部学生を除き、民間希望者の大半が何等かの内定を得ている。

就職協定廃棄が、日経連側から声高に叫ばれる就職協定（八月一日会社訪問解禁、十月一日内定開始）を尻目に、実質六月下旬から内定の出始めた民間企業では、証券や不動産で一部採用の手控えが見られたが、年々上場企業を含め道内・外有力企業への大量内定が目についている。

そのうちの今年目につく企業を拾うと、道内企業では北海道中央バス、ほくさん、テルウエル北海道、及び、北海道拓殖銀行をはじめとする主要銀行、信金等。道外では、日本ハム、東陶機器、スズキ、日本ビクター、三越、合同酒精、山一證券、日興證券などがある。

道職員上級試験に一四名合格

九月六日の北海道職員上級試験の合格発表を皮切りに各種公務員試験の結果が発表されている。今年度は一般行政系が軒並み削減され厳しい状況であった。その中で、北海道上級職では一四名（既卒含む）の合格者が生まれ、昨年の六名（既卒含む）を大幅に超えた。しかし、国家II種、北海道中級職ではそれぞれ六名（昨年一三名）、三一名（昨年五六名）と前年度を下回った。ただ、前年度の大量採用と比して厳しい試験の中で、一昨年水準（国家II種六名、道中級二三名）を維持・前進させたことは、学生のレベルアップが図られているものと見ている。

その他の市町村は現在結果待ちである。最終的には前年を下回るものの、一昨年の水準（九二名）は超えるものと期待している。

きめ細かく就職指導実施

学生部就職課では、現四年生に対し、昨年十月から四回の全体ガイダンスの外、対象別ガイダンス、模擬面接等を実施し、更に、大学に各企業を招いての業界研究会、会社研究会等、きめ細かく就職指導を実施した。

対外的には、同窓会の協力を得ながら、六月には東京、十一月には札幌で「企業と大学との懇談会」を開催した。就職環境と本学の評価の上昇に伴い、数多くの企業の人事担当者が参加した。さらに、道内商工会議所と協力して学内説明会を実施した。加えて、東京、名古屋、大阪地区での企業訪問、道内主要都市での企業訪問を実施した。

一方、本年二月には、就職情報センターを新築のD館一階に移設し、新装オープンした。これにより従来の学生用スペースが約三倍になり、企業研究・相談等が飛躍的に改善された。ビデオコーナーの設置など全国的にも恵まれた環境・設備となっており、利用者も格段に増加している。

話題この人

北海道職員上級試験に合格した笹岡克紀さん

「身体障害のハンディを考えると、皆と同等に扱ってもらえるのは公務員しかない、と考えていました。」

九月六日発表の北海道職員上級試験（一般行政）に、本学から現役で唯一人合格した笹岡さんの初志を貫いた弁。

生後六カ月、小児マヒの予防注射が原因で、四肢痙性マヒの重症を背負うことになった笹岡さんは、真駒内養護学校、厚別高校を経て、公務員になるには―と本学法律学部に入学した。

入学後、地下鉄、バス等を利用しては通学に制約があるので、一年の夏休みに運転免許を取得、いらい自宅から車で通学、三年終了時には卒業に必要な単位を取り終えた。

公務員試験の準備に本格的に取り組んだのは二年の後半から、通信教育、問題集などを丹念に積み重ね、その努力が道上級、中級、国家II種とすべて実を結んだ。

「公務員試験の合間に銀行、コンピューター会社など民間も数社訪問しましたが、いずれも手応えが弱く一回行ったきり。自分も経験のためと割り切っていましたがー。」

公務員を狙う人は、早くから意志を固めて、日常コツコツ努力することが必要。四年生になるといろいろ誘惑もでてきますから」と後輩にアドバイス。

背水の陣を布かざるを得なかった一面があったにせよ、自己分析―目標設定―計画実行、といった就職活動の基本的なことが、いかに大切かを教えてくれる一例だ。

キャンパス見学会 参加者数は過去最高

受験生・父母を対象に

九月十四日（土）の十四時から十七時まで、本学において受験生・父母を対象にしたキャンパス見学会を開催した。

本年度は、全国の十八歳人口は二〇五万人とピークの年であるためか、参加人数は二七〇名と過去最高の人数となった。

当日は、全体説明会、学内の見学会、相談コーナーでの相談会を行った。参加者のアンケートを分析したところ、以下のような結果となった（回答数二〇一名）。昨年との大きな違いは、相談コーナーの利用が活発であったことである。昨年は学内の見学を主な目的とした参加者が多かったのに対し、本年は、学科の内容、資格、学生生活、就職、入試状況と各相談コーナーでの相談を主な目的とする来場者が多くあった。来場者に対する相談コーナー利用者の比率は、昨年度四二・五%であったのに対し、本年度は八五・六%と、格段の差があった。

見学会の実施をどこで知ったかという問いに対しては、担任の先生からが一一三名と、事前の高校巡回による広報活動が効を奏したようである。

経済学部・社会情報学部 教職課程認定を申請

経済・社会情報両学部発足に伴い、九月二十日、文部省に対し課程認定を申請した。

申請免許状の種類および免許教科は、経済学部＝中学校一種（社会）・高等学校一種（地理歴史）・同（公民）、社会情報学部＝中学校一種（社会）・高等学校一種（公民）の五免許となっております。両学部の申請免許内容は、経済学部前身の商学部経済学科における教員養成の成果と学部改組に伴う学科目の充実、社会情報学部における社会関係科目の厚みを踏まえたものです。

平成三年度 文泉会幹事会開かれる

札幌学院大学文泉会（同窓会）の平成三年度幹事会が十月五日、午後二時から本学で開かれた。この幹事会は、例年秋、同窓会役員が母校に参集し、キャンパスの充実発展の現状を見聞しながら、当面の課題や次年度の活動方針について協議しようという趣旨で開かれているもので、本年は、五十名が出席した。

幹事会では、既設の三十支部に続き、六月には千葉県一円を区域とする千葉支部が発足、七月には紋別支部の設立が準備され、さらに十一月には千歳支部の設立総会が予定されるなど道内外で本学卒業生の結集が進み、地域支部の活動が活発化しつつあること、また、来春の卒業祝賀会から、卒業生諸君が各自の勤務地で同窓会に結合するよう各支部代表の紹介を行うことなどの報告があった。

次いで協議事項では、二万二千名を超える同窓生全員の「会員名簿」を平成四年秋に発刊すること、本学中退者で加入を希望する者のための会員推薦規程の制定等が了承されたほか、来年度の事業計画についての提言があったが、今後の活動に当っては、平成八年（一九九六年）に迎える学園創立五十周年を念頭におき、財政基盤の強化確立、事業の活性化を図っていくべきだという発言も聞かれた。

会議に引続いての懇親会には、見澤俊明学長・林善之常務理事が出席し、本学発展の現況を語り、今後は教学の水準の向上、明確な特徴を持った大学を目差してゆきたいので同窓会の協力・支援をお願い致したいとの挨拶を行い、その後は、師弟、先輩・後輩の歓談が尽きず、名残を惜しみながら、午後五時閉会した。

職員人事

◎**採用**　平成三年十月一日付

《専任職員》

清水　美保

財務部財務課職員
平成三年北星学園大学経済学部経済学科卒業　二十三歳

松本　賢彦

教務部教務課職員
平成二年北海学園大学法学部法律学科卒業　二十四歳

※年齢は採用日現在のもの

◎**退職**　平成三年八月二十六日付

職員　**木村　義人**

◎**異動**　平成三年十月二十一日付

学生事務部長　**谷口　義秋**
兼学生部学生課長
兼学生部就職課長
（学生事務部長兼学生課長）

教務部教務課長　**片桐　宏理**（教務部入試課長）
教務部入試課長　**渡辺　利夫**（学生部就職課長）
教務部学務課長　**荒　憲一**（教務部学務課長補佐）
総務部情報処理課長　**鈴木　仁**
（総務部情報処理課情報処理係長）
学生部就職課長補佐　**管野　紘一**（教務部教務課長補佐）
学生部就職課就職係長　**菊地　信次**（学生部就職課職員）
教務部入試課入試係長　**竹本　隆**（教務部入試課職員）
教務部教務課教務係長　**飛田　哲也**
（企画調査室企画調査課職員）
総務部情報処理課　**土田　建次**（教務部教務課教務係長）
教務部教務課　**小野寺順子**（学生部学生課職員）
学生部学生課　**神戸　典子**（教務部教務課職員）

※（　）内は、旧役職及び所属

交流の翼、駆け巡る

私達のサマー・デイズ
―ベントリー大学・海外研修―

第九回目を迎えた今年の短期海外研修は、八月二日～八月二十七日の二十六日間、アメリカ・東海岸ボストン市から車で三十分程離れたウオルサム市に所在するベントリー大学にて行われた。緑に囲まれたその広大なキャンパスで、本学十八名の参加学生が思い思いの夏を海外で過ごしたのだ。今回は、その体験を三人の学生に自由に語ってもらうことにした。

―アメリカ研修に参加して、自分自身何か変わった事がありますか？―

藤井・何かやってみようとか、チャレンジ精神が身についた気がします。今では、英語をもっと話したり勉強しようと思っています。

清水・とにかく、アメリカでは開放的な気分を味わえたので、研修に行く前よりも自分をアピールできるようになりました。日本では、みんな誰かに頼りがちになってしまい、うまく自己表現できなかったと思うんです。

古川・私も同じように、自分を自由に表現できる楽しさを感じました。きっと、現地でできたアメリカ人の友人達が教えてくれたんだと思います。アメリカは、私にとって、大変居心地が良い国でした。

藤井　いくみさん（人文学部英語英米文学科３年）

―研修中の楽しいエピソードなどを聞かせて下さい―

清水・ベントリー大学に着いてから、参加学生一人に一人ずつ現地学生が友人として紹介されたので、思い出がたくさん出来ました。夏の暑さのせいもあって、夜の学生寮で冷えたビールで乾杯をしたこともあります。彼らは、『バディ』と呼ばれていて、日本に関心のあるベントリー大学生の中から募集されたそうです。

清水　真知子さん（人文学部英語英米文学科３年）

古川・バディ達は私達のカタコト英語を我慢して聞いてくれたので、数日のうちに自分の英語力に自信がついた気がしました。やっぱり、言葉よりハートのつながりが大切だなと思いました。

―語学授業はどの様でしたか？―

藤井・授業は、とても新鮮なイメージを受けました。中学校・高校と英語の授業を受けてきましたが、あれ程英会話の授業が楽しかった事はありませんでした。興味溢れる話題を扱ってくれて、ついつい英語で発表する機会が増えるんです。

バディ達と過ごす賑やかな午後

清水・日本の大学で言う『オーラル・イングリッシュ』の授業に似ていると思いますが、先生がフランクに私達と付き合ってくれたのが印象的でした。

古川　睦子さん（人文学部英語英米文学科３年）

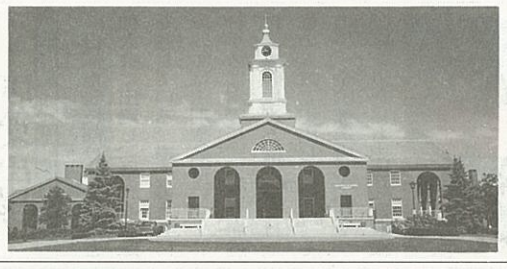
古川・文法より会話訓練が大切だと強く思いました。言われた英語を頭の中で日本語に直してから、自分の英語で答えるんですが、研修の最後ではかなりのスピードで話せるようになったと思います。せっかく、調子がつかめて慣れた頃に帰らなくちゃならないのは、とてもくやしかったです。

日本にとても関心を持っていたクリスと藤井さん。

藤井・大学に交換留学生制度があったなら、是非挑戦してみたいです。

―来年以降に参加する学生に何かアドバイスはありませんか―

清水・何でも自分からアプローチする気持ちを忘れずに。



訪問したベントリー大学の図書館。

古川・何をしたいか目的をハッキリと持って、アメリカに着いたなら、心を大きく開いて行動して下さい。

藤井・その他に、日本のことをもっと勉強した方が良いです。案外自分の国のこと、聞かれて困るんですよ。あとは、度胸だけ。そうすれば、会話はもっと弾みます。

第8回 四系列教育会議本学で開催
―四系列教育に新分野の開拓―

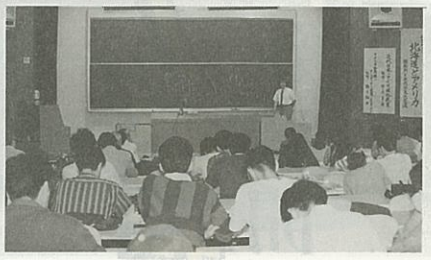
第八回四系列（商学・経営学・会計学・情報科学）教育会議が、八月二十九日、三十日の両日「四系列教育のニュー・フロンティアを探る」という統一テーマのもとに本学で開催された。

出席者は全国の約六十校の大学・短大の商学部長・経営学部長および教務関係の先生方で、本年七月より大学設置基準が改正され、本教育会議の議論とその社会的役割が一層重要性を帯びていることもあって、本教育会議では、終始真剣な報告と議論が行われた。

会議は、実行委員長藤永弘（本学商学部長）の開会挨拶の後、『第一議題（会計学）』司会＝吉田寛氏（流通科学大学）、「公会計学教育」報告者＝石井薫氏（東洋大学）、山本清氏（小樽商科大学）。『第二議題（経営学）』司会＝真野脩氏（北海道大学）、「国際化・情報化と経営学教育」報告者＝高橋由明氏（中央大学）。『第三議題（商学）』司会＝宇野政雄氏（早稲田大学）、「地域マーケティング教育」報告者＝室井衛氏（東京国際大学）。『第四議題（情報科学）』司会＝涌田宏昭（東洋大学）、「社会情報教育」報告者＝田中一氏（札幌学院大学）。『第五議題（四系列教育事例）』司会＝山川典宏氏（九州産業大学）、「立正大学経営学部の特別情報教育システム」報告者＝厚東偉介氏（立正大学）、「札幌学院大学商学部の流通システム教育」報告者＝杉本修氏（札幌学院大学）で行われた。

今回の教育会議では、日本最初の社会情報学部施設の見学および田中学部長の社会情報学部の紹介と教育実践の披瀝があり、今後の四系列教育に多くの示唆を与えた有意義な教育会議であった。

人文学部公開講座「北海道文化論」
北海道とアメリカ
―開拓期と現代の文化交流―



今回で十一回目を迎えた札幌学院大学人文学部公開講座「北海道文化論」が、九月二日から九月七日までの六日間にわたって催された。今年度の総合テーマは、「北海道とアメリカ――開拓期と現代の文化交流――」。日米関係全般の歴史の中で、北海道とアメリカの関係は異彩を放つものといえる。明治初期の北海道開拓においてはクラーク、ケプロン、札幌農学校等に代表されるアメリカの文化・技術の影響があるし、現代では本道とマサチュセッツ州の姉妹提携に象徴される文化交流の展開がみられる。にも拘らず、北海道とアメリカの関係を歴史的に真正面から検討し、将来を展望する試みはこれまで真剣に行われてこなかったのではないか。今回の総合テーマは、かかる問題意識の下で設定された。

各講師と論題は、次の通り。九月二日　関秀志「明治初期における北海道とニューイングランドとの交流」。九月三日　高久眞一「『アンビシャス』への疑問―W・S・クラーク再考」。九月四日　大山綱夫「日米文化接触の歴史の中の北海道」。九月五日　原田一典「開拓使のお雇い外国人とアメリカ」。九月六日　鵜月裕典「アメリカ合衆国のインディアン政策とインディアン」　竹ヶ原幸朗「近代日本のアイヌ同化政策」。九月七日　青木暢「文化の流入、交流、そして逆流？」、高橋寿一「姉妹都市提携交流」。聴衆は、学生延べ四五五人、一般市民延べ六十三人であり、各回とも活発な質疑が行われた。公開講座の詳しい内容については、来年出版予定の講義録を参照されたい。

海外留研だより

職員海外研修
花と石の街を旅して

教務事務部長　石田　勲

イタリア南部のナポリに、家族とともに居住して三カ月が過ぎました。イタリアは先進七カ国の一つに数えられる国ではありますが、当初の予想通り、南部のナポリは北部の諸都市と異なって、まるで発展途上国の都市のような環境です。大きなスラムこそありませんが、ゴミゴミした雑然とした街並の到る所に物乞いの姿をみかけ、スリ、引ったくり、コソ泥、強盗は日常茶飯事ですし、マフィアの影響力も耳にします。様々なシステムがあってなきがごとし（このおかげで子供は簡単に小学校に入れたのですが）というのもナポリの特徴です。

この背景には、勤労より遊びを好むラテン系の民族性もさることながら、目立った産業がなく、二〇％を超える失業率があります。しかし、他面、ナポリ人は極めて人なつこく、私達家族も三カ月で何度もイタリア人の自宅に招待され、はたまた結婚式（披露宴は二時から深夜まで延々続きます）にまで招待されました。

私の研究テーマは、イタリアの南北間格差と日本の地域間格差の比較研究ですが、住んでいるだけで南北問題（il mezzogiorno）の疑問―W・S・クラーク再考。九月四日　大山綱夫「日米文化接触の歴史の中の北海道」。九月五日　原田一典「開拓使のお雇い外国人とアメリカ」。九月六日　鵜月裕典「アメリカ合衆国のインディアン政策とインディアン」　竹ヶ原幸朗「近代日本のアイヌ同化政策」。九月七日　青木暢「文化の流入、交流、そして逆流？」、高橋寿一「姉妹都市提携交流」。聴衆は、学生延べ四五五人、一般市民延べ六十三人であり、各回とも活発な質疑が行われた。公開講座の詳しい内容については、来年出版予定の講義録を参照されたい。

ローマ大学正門前にて

タイムトンネルで数百年前の時代に紛れこんだのかと一瞬勘違いする様な光景が目の前に広がっていた。ローマに到着した。遺跡のなかに街があるような、街全体が美しい博物館のような、花と石の国イタリアに思わず目を見張った。

去る、七月二十九日から八月十七日までの二十日間にわたり私立大学協会主催「第五十四次ヨーロッパ研修団」に参加、イギリス・イタリア・スイス・ドイツ・ベルギー・フランスの六か国を訪問、主に教育制度全般にわたる現地研修とともにキリスト教文化を起源とするヨーロッパ各国の文化・歴史・社会・政治・経済等について総合的認識を深める機会を得ることが出来た。

各国とも、世界中の国から多様な人種が都市に集中し、どこの国に来ているのか一瞬戸惑う程でした。特に現地のガイドの話では、東西ドイツの統合、東欧諸国の民主化、ユーゴの内紛等の影響でそれらの国からの人々の流入が増加しているとのことでした。陸続きの国と海で囲まれた日本との条件の違いを思い知らされた。

今回の研修旅行は、激動するヨーロッパの一部に触れただけですが、各国が抱える悩みの一部を垣間見ることが出来た二十日間であった。

勉強になるくらいです。私にとって、イタリア語は第三外国語であり、まだ聞く・話すは十分できませんが、午前中は語学学校、午後はナポリ東洋大学の図書館で辞書片手に資料検索という日が続いています。イタリアでは七、八月は何もできませんが、秋以降、南部の様々な地域を巡る予定です。

末筆ながら、イタリア留学を許可された札幌学院大学の皆様に心から感謝申し上げます。

経済学部教授　髙原　一隆

新書庫増設と資料の再配置について

現図書館は、本学の前身である札幌短期大学を発展的をかけ一九七八年に建設、同年四月開館された。

この検討期間の中で本学図書館の原点ともなっている「便利で利用しやすい図書館づくり」の考え方が確立され、大幅な資料の開架方式・資料の集中管理・地域住民への図書館公開等が具体化されていった。

一九八六年、図書館が増築され図書・雑誌等の開架スペースが約二倍に拡張された。そして本年七月約十万冊収納可能な電動式移動棚の設備された新書庫が完成した。図書館では、これを機に一部分散化した資料を図書館に集中すると共に、一層「便利で利用しやすい図書館づくり」を推進する観点で資料の再配置を行うことにした。

これにより主として学生利用者の利用しやすい一～二層に利用頻度の高い図書及び雑誌が開架式で排架され、三層の新書庫には全洋書・洋雑誌がまとめられることになる。

二月から三月にかけ資料の再配置を行うため、利用者の皆さんにはご迷惑をおかけするが図書館をこれまでにも増して大いに利用して頂きたい。

本学図書館は簡単な手続きで学外の方々にもご利用頂いている。

第21回大学祭
秋だ！祭だ！大騒ぎ
新装開店学院祭

秋恒例の行事である大学祭が今年も十月九日から十二日までの四日間にわたって開催された。

昨年、二十回目を数え、今年の大学祭は、新たな発展の方向を求められるものとなったが、学生達の実行委員会は、それらを意識しながら七月から準備を開始し、「新装開店」の日を迎えた。

今年の大学祭は各所に新たな企画を盛り込み、例年の模擬店や展示研究発表に加えて、野外での諸企画でにぎわいをみせた。

一日目は初日祭でオープニングを飾り、野外ステージにおいて伝統のオカマコンテストなどが繰り広げられた。続いて二日目は、作家・タレントの安部譲二氏を招いての講演会が企画され、会場の教室は満員の人の入りとなった。また、同じ日に法学部自治会の企画した〝政治的無関心克服講座〟は、事前に「硬派の企画」とマスコミにも取り上げられた。

三日目は、四つのプロ、アマチュアバンドを迎え、野外に設置したステージ上で、キャンパスライブが熱演された。これも本学の大学祭には欠かせない企画となっている。

最終日はカラオケあり、仮装盆踊りありの後夜祭で最後の盛り上がりをみせ、四日間の幕を閉じた。

今年の様々な成功や失敗をもとにして、また来年の大学祭の企画につなげてほしいものである。

秋の課外活動

■サッカー部 念願の一部リーグ昇格！

一昨年、低迷の三部リーグから脱却し、着実に前進してきたサッカー部は、春の総理大臣杯トーナメントで札幌大学に惜しくも敗れたが、七月上旬の北海道地区大学体育大会では、みごと優勝を果たした。その波にのって、七月中旬から始まった学生サッカー二部リーグでは、初戦から順調に勝ち進み、第五節までは五戦全勝。次の酪農学園大学に敗れたものの、最終の北海学園大学と引き分けという結果でリーグを終え、念願の一部リーグへの昇格を達成した。

今シーズンの調子を持続して来年一部での活躍に期待したい。

■羽球部 台湾・親善交流試合に参加

社会情報学部一年　芳村晋悟

私は、七月七日から十四日までの一週間、北海道からただ一人、日本の学生連盟代表チームのメンバーに選抜されて、台湾での親善交流試合に遠征して来ました。

初めての海外遠征で、スケジュールについていくのがやっとでしたが、一緒に行った人達のカバーのお陰で、何とか無事に終えることが出来ました。私自身の試合結果の方は、全敗でしたが、台湾三位の実力を持つ人との試合はとても勉強になりました。やはり北海道のレベルの低さを実感するとともに全日本のレベルは世界的にも決して劣っていないということを感じました。

遠征先の台湾は、気温、湿度がともに高く、体調を崩すほどで、私は試合中一ゲームが終わる前に脱水症状になり、汗が止まらなくなってしまいました。また、どこに行っても蒸し暑く、頭が割れそうに痛くなったり胃の調子を悪くしたり、遠征から帰っても病院へ通う程で大変でした。

今回の台湾遠征ではたくさんのことを勉強でき、それらのことを今後の大会で是非生かして行きたいと思います。

■自転車競技部 ツールド北海道、国体へ出場！

自転車競技部は、今年も各種大会に出場し、優れた記録を残している。道内の大会においては士別や名寄のロードレースに出場し、また北海道自転車競技選手権大会では上位の入賞者を出している。その後、全国都道府県大会や全国インカレにも出場し好成績をあげた。

秋には恒例となったツールド北海道に、道選抜チームとして三名の部員が抜擢された外、石川県での国民体育大会にも一名が出場するなど話題のつきない自転車部の活躍である。

■陸上競技部 北海道大学駅伝V2！ 全日本大学駅伝(名古屋→伊勢神宮)二度目の挑戦

去る九月二十九日に行われた第三回北海道大学駅伝対抗選手権大会において、陸上競技部は、昨年に引き続き二連覇を達成した。

ここでは豊平川のサイクリングロードを舞台に、第一区から第八区まで約八〇キロのコースで、八大学が参加して行われた。本学チームは、一区から早くもトップに出て独走の体制を固め、そのまま二位以下を寄せつけずにゴールした。これにより二年連続全日本大学駅伝への切符を手にし、チームは名古屋へと遠征した。

二回目の出場となった全国大会は、昨年同様名古屋から伊勢神宮まで約一〇六キロを八人が走り抜き、二十三校中二十一位、タイムも昨年を十八分上回る成績に終わった。

今年は最下位だけは免れたいと必死に練習を重ねてきた結果が実を結んだと言える。

今後も駅伝をはじめ、勢いにのる陸上部全体の活躍がますます期待できる。

■アメリカンフットボール部 創部以来の快挙！ 北海道学生選手権〝初優勝〟

アメリカンフットボール部は、第十七回北海道学生アメリカンフットボール選手権大会において、創部十三年目で念願の初優勝を飾った。最優秀選手には主将のG山吹達哉（商学部四年）が、ベストイレブンにはQB飯田繁信（商学部四年）他十名が選ばれた。

昭和六十二年から学園後援会の援助で毎年実施している学外技術コーチの招聘により、選手が力をつけたことが初優勝につながった。

この結果「ミサワパインボウル（東日本学生王座決定戦）」へ初出場を果たし、十一月三日、全国大会出場をかけ東北大学と札幌厚別競技場において対戦した。当日はテレビ放映もあり、寒い中つめかけた大応援団がチアリーダーのリードで熱い応援を送った。初出場ながら前半同点と善戦したが後半開始早々リードされ、大健闘をみせたが十九対七と一歩及ばなかった。

惜しくも全国王座決定戦出場はならなかったが、この勢いで早くも来シーズンに向けて新たな意欲を燃やしている。